



BG-U膜の透析掻痒症への効果



目的

皮膚掻痒症は透析患者に高頻度に認められる合併症の1つである。これまで透析患者の皮膚掻痒症に対して有効な治療法は少なかったが、近年、PMMA膜であるBG-U膜を使用することで透析患者における皮膚掻痒症が改善したと報告されている。そこで我々は特に皮膚掻痒症の強い透析患者に対し、BG-U膜を用いて短期間および長期間での皮膚掻痒症に対する効果を検討したので報告する。



対象・方法

当院通院中の慢性血液透析患者6名(平均年齢 55.8 ± 5.5 才、平均透析歴 13.2 ± 6.1 年、平均BG-U膜使用期間7.9ヶ月)に対し、Visual Analog Scale (VAS) scoreを用いて痒みに関する調査を行った。

BG-U膜変更前、BG-U膜変更後1ヶ月後、BG-U膜変更1年間後にVAS score、好酸球、血清Pを測定し、Paired T testを用いて検討した。



Visual Analog Scale (VAS) score について

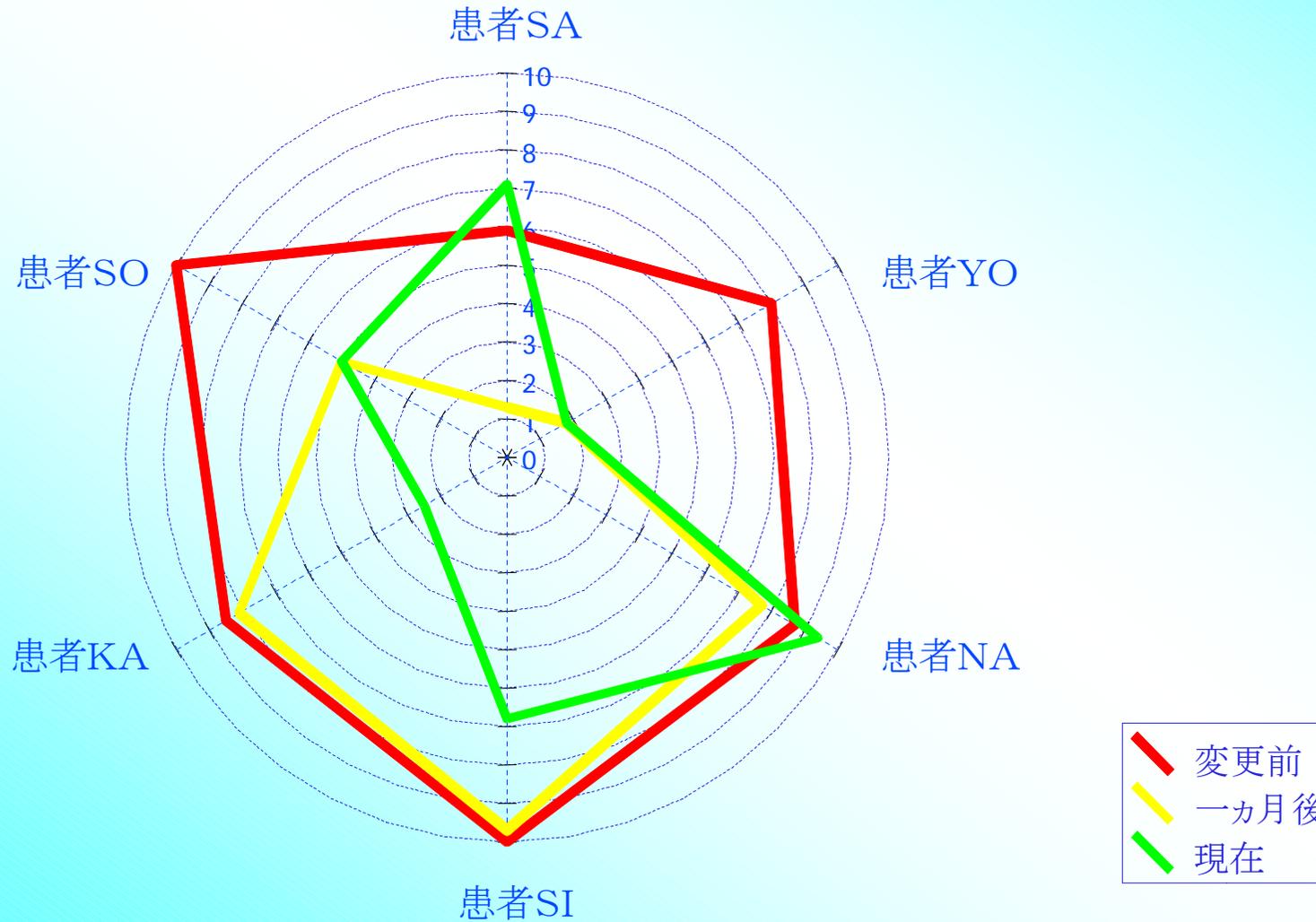
痒みなし

最も痒い

10cmの直線の左端を痒みなし、右端を最も痒いとし、自覚的搔痒強度の程度を記入してもらい、痒みなしからの距離を測る。

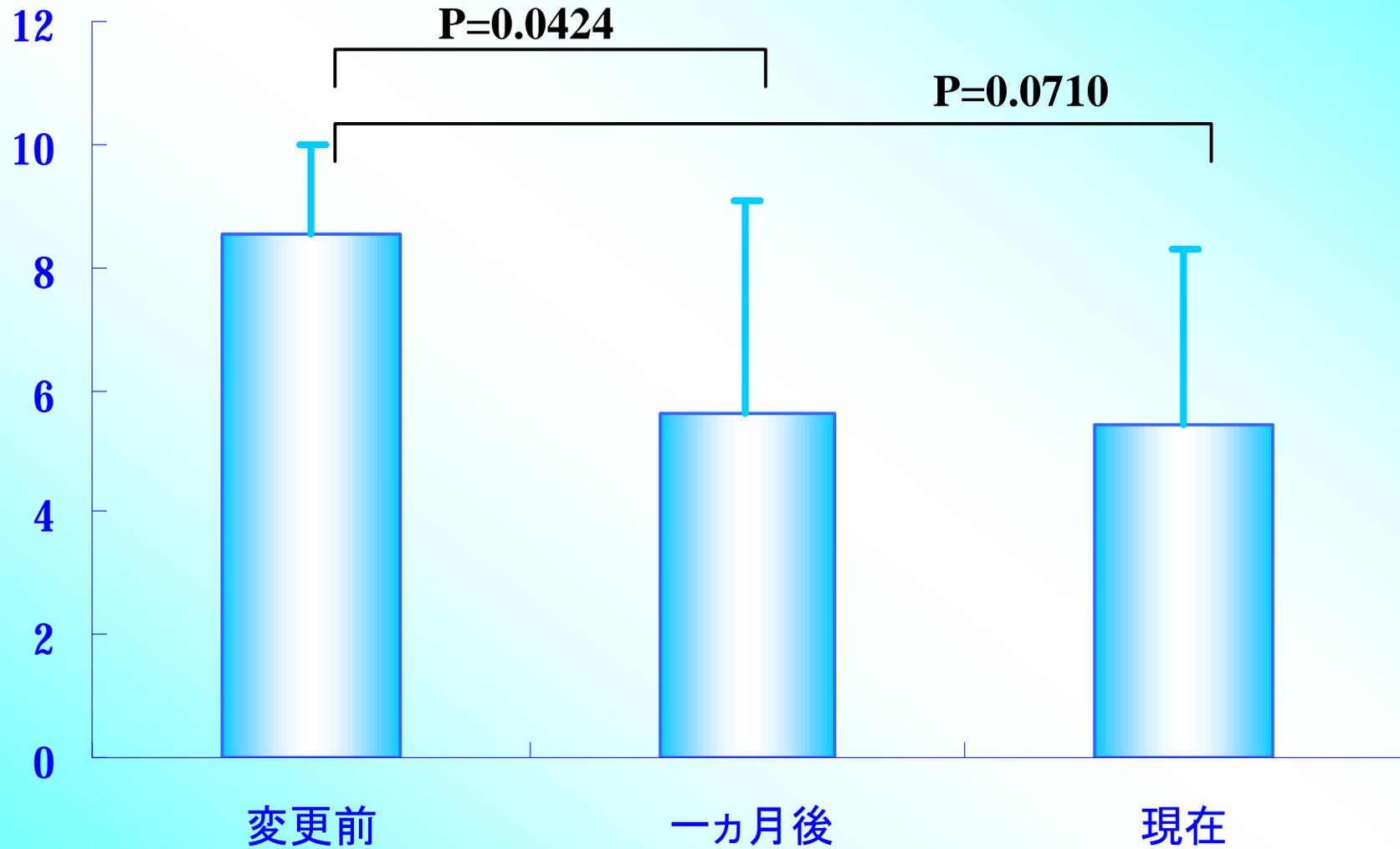


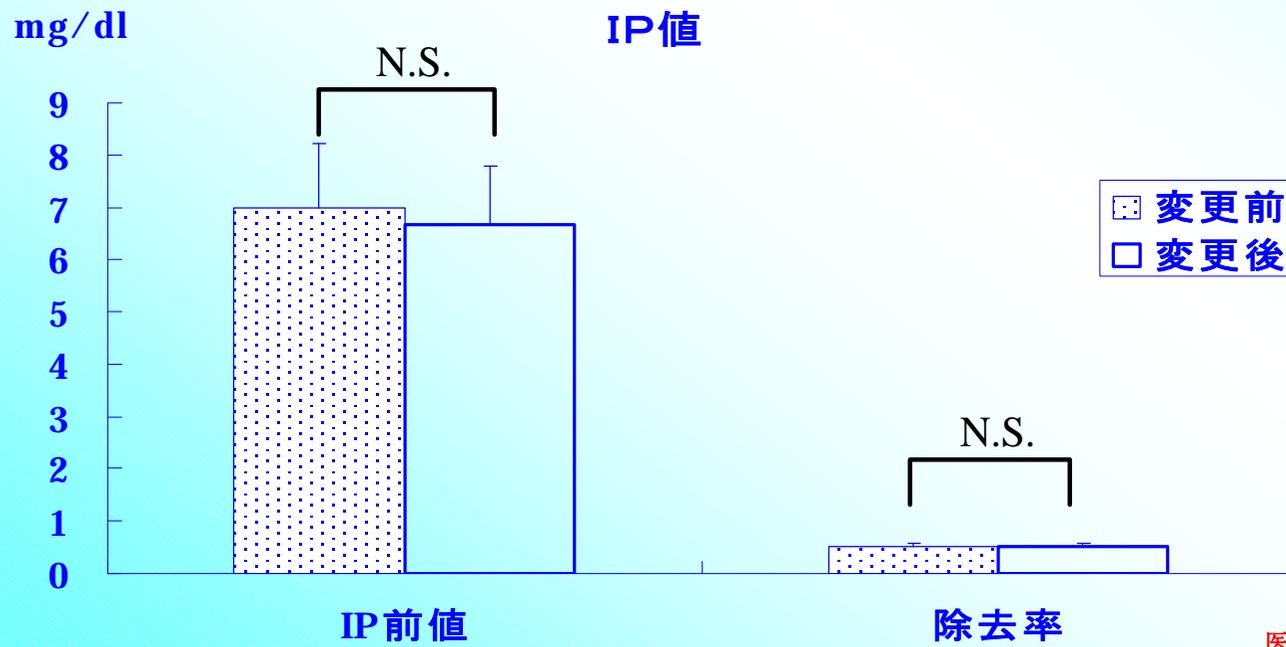
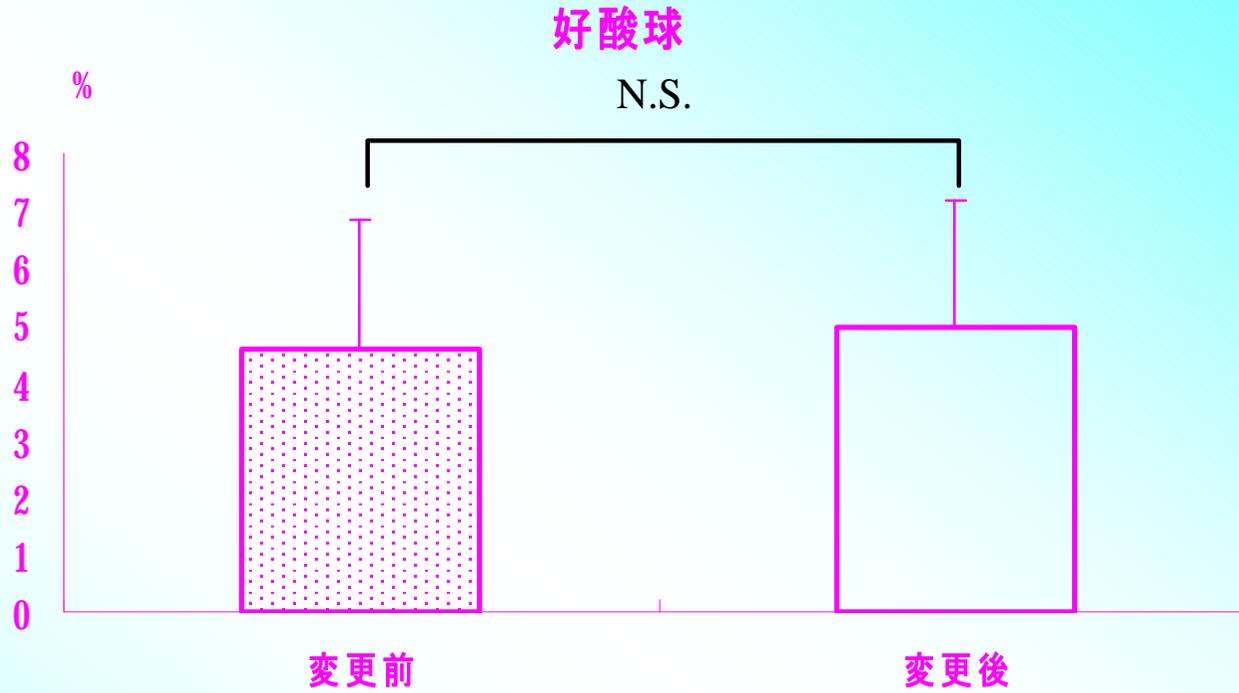
患者別VASスコア





VASスコア







結 果

- VAS scoreによる評価ではBG-U膜変更前 (8.5 ± 1.5) と比較しBG-U膜変更1ヶ月後 (5.6 ± 3.5) で有意に改善した ($p=0.0424$)。BG-U膜変更1年後 (5.4 ± 2.9) はBG-U膜変更前と比較し改善の傾向を認めた ($p=0.0710$)。
- BG-U膜変更前後において、好酸球、血清P および血清Pの除去率には変化がなかった。



結 語

長期効果の評価はVAS scoreのみでは困難
であると考えられたが、透析患者における皮
膚搔痒症に対し、BG-U膜は短期および長期
で有用であると考えられた。